

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	龍ヶ崎市立長山中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	1	13	26
生徒数	123	145	160	4	432	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人の生徒に基礎・基本の定着を図り、自ら学び自ら考える力を育てる学習指導法の研究  
 ~ 数学科・理科・英語科を中心として ~

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・数学  
 生徒選択による習熟度別少人数指導及びT・T(3年生全クラス全時間)  
 T・Tと生徒選択による習熟度別少人数指導(1,2年生全クラス週1時間)  
 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため、生徒一人一人の学び方や  
 つまづきに対応するため。また、3年生は1クラスの生徒数が多く、なかなか  
 一人一人に支援するのが難しく、少人数で目が配れるようにするため。

・英語  
 生徒選択による習熟度別少人数指導(3年生全クラス全時間)  
 生徒選択による習熟度別少人数指導(2年生全クラス週1時間)  
 現在、英語教育の中で重視されている話す力を伸ばすためには、個々の生徒  
 との対話練習の時間を確保することが大切である。そのため、一人一人に対応  
 できる場を設定するため。

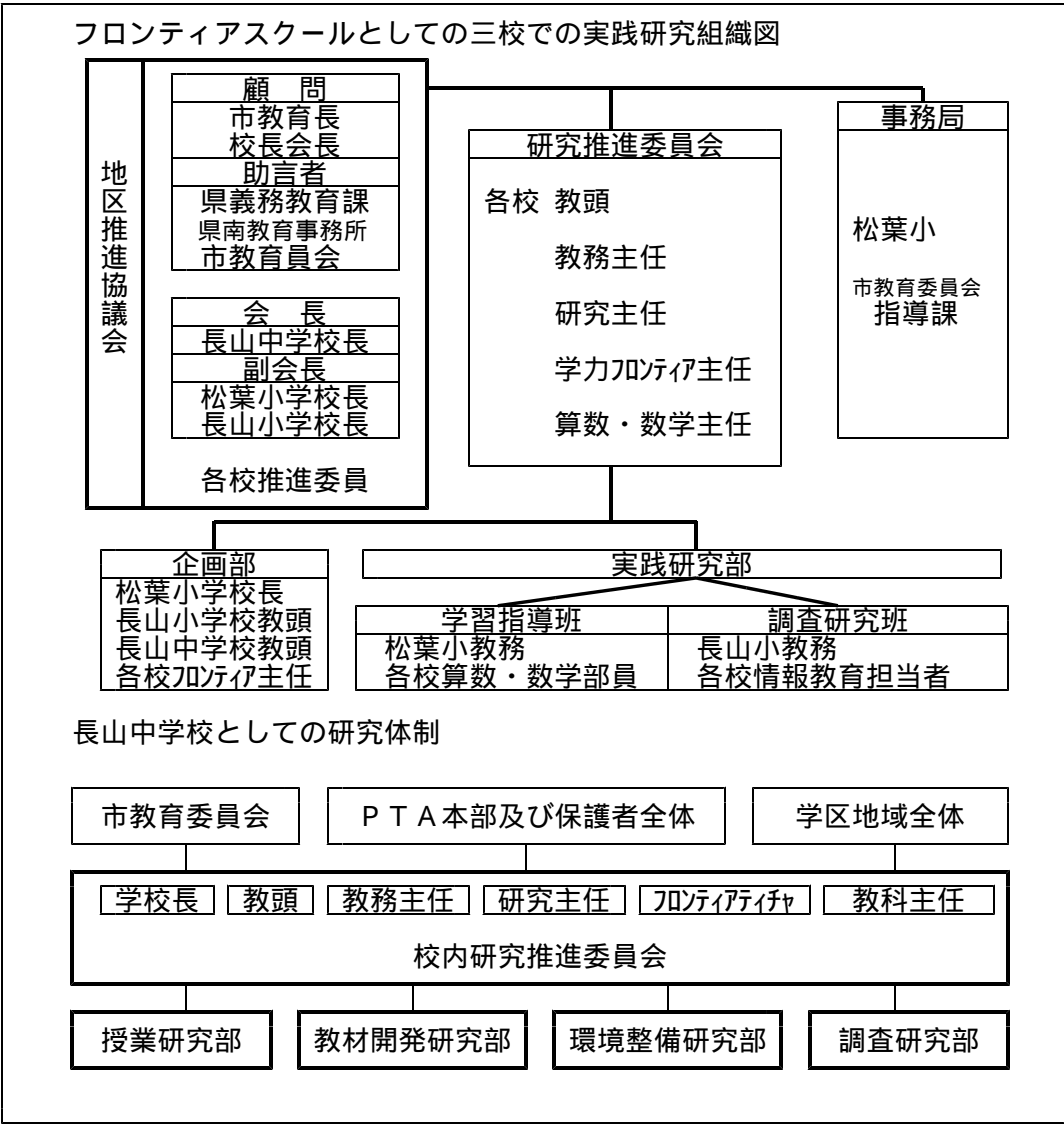
・理科  
 興味・関心別コース別少人数指導(3年生全クラス週1時間)  
 興味・関心別コース別少人数指導(2年生全クラス全時間)  
 教科の特質として、生徒一人一人の興味・関心に視点をおき、生徒一人一人  
 の興味関心や解決方法に対応できるようにするため。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	<p>テーマ              「一人一人の生徒に基礎・基本の定着を図り、              自ら学び自ら考える力を育てる学習指導法の研究」              ~ 数学科・理科・英語科を中心として ~</p> <p>研究の見通し              「確かな学力」の向上を図るために、生徒一人一人の実態に応じたきめ              細かな指導の一層の充実を図る。主として3教科(数学、理科、英語)を              中心に研究を進めるが、全職員による指導体制を構築し、指導法や教材開              発において、全教科に派生できる研究を行う。さらに、生徒個々の自己理              解の度合いを高め、正確に自己評価できる力を伸長する。</p> <p>研究の内容・方法              生徒個々の実態に応じた支援方法や学習過程を工夫すること              基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させる指導法を構築すること              生徒個々が意欲を持って臨める補充・発展的な教材を開発すること              生徒が自分自身を的確に評価できる自己評価力を育てること              生徒個々の実態を的確に把握する評価問題、評価方法を思考すること              自ら学び自ら考える力の育成を主眼とした授業を創造すること              全職員が互いに協議し合いながら教材開発に努め、新たな授業を創造              しようとする体制の確立と意欲の高揚を図ること</p>
----------------	--

平成16年度	<p><b>テーマ</b>  「一人一人の生徒に基礎・基本の定着を図り、自ら学び自ら考える力を育てる学習指導法の研究」  ～ 数学科・理科・英語科を中心として ～</p> <p><b>研究の見通し</b>  「確かな学力」の向上を図るために、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図る。そして全職員による指導体制を構築し、指導法や教材開発において、全教科に派生できる研究を行う。さらに重点として、生徒個々の自己理解の度合いを高め、正確に自己評価できる力の伸長を重視する。</p> <p><b>研究の内容・方法</b>  生徒個々の実態に応じた支援方法や学習過程を工夫すること  基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させる指導法を構築すること  生徒個々が意欲を持って臨める補充・発展的な教材を開発すること  生徒が自分自身を的確に評価できる自己評価力を育てること  生徒個々の実態を的確に把握する評価問題、評価方法を思考すること  自ら学び自ら考える力の育成を主眼とした授業を創造すること  全職員が互いに協議し合いながら教材開発に努め、新たな授業を創造しようとする体制の確立と意欲の高揚を図ること</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

項目	そう思う5	少しそう思う4	どちらとも3	やや思わない2	思わない1	
	5	4	3	2	1	
生徒項目	①意欲的に取り組んでいますか。	26.5	<b>38.3</b>	23.7	9.4	2.1
	②数学の学習が理解できているか。	24.9	<b>35.9</b>	24.4	11.2	3.7
	③理科の学習が理解できているか。	28.1	<b>37.1</b>	24.9	7.0	3.0
	④英語の学習が理解できているか。	16.6	24.8	<b>32.1</b>	18.1	8.4
	⑤コース別の学習が好きですか。	25.7	24.1	<b>33.6</b>	10.9	5.6
	⑥T・Tの授業は好きですか。	21.4	28.1	<b>34.1</b>	11.3	5.1
	⑦少人数の学習は好きですか。	29.9	24.9	<b>31.3</b>	7.5	6.4
保護者項目	①学力の向上が期待できる。	25.4	<b>51.6</b>	18.2	3.9	0.8
	②基礎学力が定着できる。	23.7	<b>50.4</b>	22.9	2.3	0.8
	③生徒の意識が高まる。	9.6	<b>47.2</b>	40	2.4	0.8
	④発表の回数が増える。	24.6	<b>43.7</b>	26.2	3.2	2.4
	⑤教師のきめ細かな指導ができる。	25.0	<b>54.8</b>	16.9	2.4	0.8
	⑥指導の個別化ができる。	19.2	<b>55.6</b>	19.2	2.0	4.0

生徒のアンケート結果からもわかるように、各学習に対しての意欲は高まっている。特に少人数コース別の学習の数値が高く、生徒個々の意欲の向上に有効であることを示している。

また、教師が以前より生徒を観察するようになり、数多くのデータをもとに正確な評価から生徒把握を行い、生徒の特性に合わせて適切に支援できるようになったため、3教科に関する理解の度合いも高まっている。

さらに教師が問題提示の工夫、教材の開発、学習過程の創造など、内容に関する教材研究を十分に行い、教師の意図を持った学習が進められるようになってきている。

保護者のアンケート結果からは、複数教師による少人数や習熟度別指導についての関心の高さが伺え、期待を加味した必要性を示している。

教員の側からも少人数指導や複数教員によるT・Tは、実際に生徒個々の小さな躓きの段階で的確な支援ができることを実感し、必要感を体感するとともに、自然に教師間の連携が図れるようになった。

生徒は、自分にあった学び方が選べ学習に対しての意欲が増した。また、生徒自身が自分を振り返り、自己決定する機会が増え、客観的に自己評価する力が磨かれてきている。

3校及び地域で事業を連携して行ってきたため、小中の教職員の交流が密になり、生徒指導面でも生徒の実態把握に役立っている。

### 2. 今後の課題

- ・ 生徒一人一人の実態を適切につかめる評価問題、評価記録カードなどを作成する。
- ・ 単元のどこで発展・補充の学習を構成していくことが有効か思考し、全単元とも年間計画に位置づけるとともに、補充・発展コース別の達成規準を明確にする。
- ・ 個に対しての適切な課題（補充・発展）及び補助教材の開発を行う。
- ・ 支援方法を工夫するとともに、生徒の自己評価力、コース選択力の伸長を図る。
- ・ 小中の連携による一貫した問題解決的学習と基本的な学び方の定着、小中の交流授業などを行う。
- ・ 校内での教育活動をより理解してもらうために、点数的なものだけではない「学力」の概念を保護者に伝え理解を図る。

#### 学力把握のための学校としての取組

- ・ 生徒の既習事項の定着の度合いを確認するために単元の準備テスト、また生徒の学習の定着の度合いを調査するために単元確認テストを実施（単元ごと）
- ・ 保護者及び生徒の意識調査をするためにアンケートを実施（学期ごと）
- ・ 小学校からのつまづきに対応するため、計算力の向上の目的で、小中を通した段階別計算プリントの作成と利用（学習中随時、数学科）
- ・ 習熟度やコース別の学習をするために、単元の途中で興味関心別アンケート調査や自己確認テストの実施（理科、英語、数学）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 保護者代表，地域の民生委員，市教育委員会，3校の教職員の代表が参加して学力フロンティア推進委員会を開催した（年3回）。特に，第2回は，地域に呼びかけ公開授業を実施し，その後，「学力について考える」というテーマでシンポジウム行った。
- ・ 今年度の校内授業研を3校間で参観し合い，さらに保護者及び地域に全て公開した。

1 学期		2 学期		3 学期	
4月	校内研修(特別委員会報告の伝達) 学活(学級開き構成的エンカウンター) 校内研修(新年度の組織作り)	9月	校内研修(教科会「指導案検討」) 管理訪問9/18	1月	校内研修2回 (次年度に向けての特別委員会) 集会(ピアサポート・学年集会・フォーラム) 教科会(「今年度の研修の反省」)
5月	校内研修(ピアカウンセリング職員研修) 全校集会(全校グループエンカウンター)	10月	所課長訪問10/2 校内研修(訪問準備・環境整備) 学校経営協力訪問10/7 妻請訪問(理科)10/8 学校体育訪問10/21	2月	校内研修2回 (次年度に向けての特別委員会) 第3回学力フロンティア推進委員会 ・地区協議会 2/3 (今年度の反省と次年度への思考)
6月	計画訪問6/3 妻請訪問(数学科)6/6 構成的グループエンカウンター研修会 (講師:大森先生) 校内授業研(数学, 英語)6/16	11月	共同訪問(数, 特活, 特殊)10/29 総合的な学習発表会10/30 学活(ピアサポート・傾聴訓練)	3月	教育相談 (友達同士の相談活動) 校内研修1回 (特別委員会の答申まとめ)
7月	校内研修(評価の共通理解)	12月	ソニー財団訪問(理, 数, 英)11/19 校内研修(フロンティア発表会準備) 学活(ピアサポート・教師と教育相談)		
8月	校内研修 (「問題解決的学習」, 「ピアサポート」) 第1回学力フロンティア推進委員会 ・地区協議会8/21				

- ・ 「長山中の教育」という学校概要の中に，学力フロンティアについて掲載し保護者に紹介した。
- ・ 第2回学力フロンティア学習発表会で紀要を作り，会に参加した各校に配布する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	√ 15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 √ 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	√ 国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	√ 数学 美術	√ 理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	√ 有	無		